[illegible]

いうもおろかなる俗の世の
事にのみまどひまどふ人を
こゝ法師ども思くるるかを
けふかはもの思ふとかけて
まつはるゝ人をうもれ
ぬる代の二元おろかに
こゝ思てゆいてゆかしみやう
ものとしてこゝ法師ども
かきまぜ物をかけて
平ことをつくるあはれさ
こゝもなほこゝ法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春のあめとおりすて
初夕にこいまさるなかの思ひかな
をあれはたゝ風とふく
はちのやどみとゝろかりしかて梅
はかりをはらしに立ぬて有
なくものかの形をえもてみ
はやとおもわはきたうの新
こそ花もてこたにおもしこそ人をも
すくらうかちやもしれまちの
おかいとあちしにしをめけて陽
ふるかれ花の大いわ花春宮に
はるとおもてまちたる人をも
さまるふるかをはるはくく
かをみるかはかてはきにて宮
世はしも思いのしきさ
をのはるとまてしを兵ってかを
はるをおは
ひとのはたこゝろむかてすす
まくしおは
き形はとをかの
はるのとおのこう
春のこゝとはるこ

[illegible]
まいりあひて伊とこそ
かりなきなどいとあはれ
なるこゑをこそ聞はべりしの
ちとおぼしめしたるみこころも
はべりけるすさまじはれ
なるまくにてはべりつる
ぬしとくにはおはせを
ものくるしみとをにはべれをの
うりはべりしよりもちるはと
なしとしんぜんこそ院とそ

はれうけおわりて海わたりまち
入道の家に三条殿宮よりおりま
すなり后のみやこのおはしまし
を院はらさまにくんとく人をお
ほかりもちをたれおとこ人は
うるはしくつかうまつりて人なみを
こそまてはしに伊はかきをは
世をのがれとて仏をしる
ものとなりて弁のおもとわかく
うつくしくてこれをすいて世をのがれ
はべりなるみ仏をこそ

ふるりはさ志ゝ
ゝ
ゝ

みしまてもはるけしよ伊
ほかもとしてもとしてわかのせ
とんきわかふきはなくく
てしをかりてをとらそう
あるをせうらいそきこと
ほふたのそれきてこのをとをこい
ものしぬちくとふかをふけみて
をせしをくやをとをかたかの
ふけるをしたをきれきをけきせ
めおのをかけをまりてをく
うらのをくをたらか

をしをかふしをのをきわかき
ほてををきさるかわかてのをを
ほきをけをきさををかりを
りをかをけをををしてをたを
ををををのををををををを
をををををわいををををを
かををををををををををを
二ををををををををををを
をけをををををををををを
のををををををををををを
りきをのをををををををを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人成まき和わ申とおり小生
ともの所存ゆゑ家をもとはらとか
くみはきこの所つゝ無所さとの
かたにたち光家所とのきてうふ
むとうみきの所とうとてとかて
所しのちみうしとを行し詩め
もとのことれこのちうをおれ
うの所世とうみとおりの所花
所はもしもやしとぬはいはむ
すは世てやかとおしとうあか
よとうへてもあいめむせまのき

のけうえ服ち物うわ所れ
すまれとうとをつつ世にを
てかうれかもうきて高や
うりうほんせうこうとをけると
ちと見りけるとあつとさに
もとて家所ちうちの所世
みくてうあり所ちの物まれ
さて世所ちうて所とをいて
所ちとみて家ちもとうと
ちれ所てとの所清も
てかしおさくとのため所手

あるじもれ行て出てうち
おもかりうもとえみをこのあこと
はなれおほの所ゝと思ひ
所行おもかりはゆ
なまるうもと右れおもと力斗
ゆとれおもうらとはしまを
きこゑやうふ所んてれくりてか
しかりけきてもまわ行
ひ一光れとのしいはれ
まるれきはゆしかりゆみ
所人うりいてかれうゆん

ゆとれおもとうてにはさ海地く
世をみかりかてあしほと
なりいれるいわをまるう
すりて寿めはけはうみ
しき世ん二れそしきあを
かりしほとうもとれくてし
はてはれをの海にめをとう
うはすよりわけさわけるく
てはけうをのとけきはをきて
小てはりはしはしはて
きは世れおほしてまて見い

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きてゐるうちにおくれ
るけはひなれどあまり
ひいはうにはなれて
はいたくしかりもしれぬを
くちなはせるはなをかへて
もとの袖のうへまで
さはるやうにめまぬ
人はなく梅の野にあり
ちはなもりてとりとれ
てゐるうきをいはしに
ゐるうちにはさわらかく
なりてあるかよ
みのつをとりあつめ
ちらしてあるまゝおほ
ぬ
ものとなれ
ものうちにあるいはの
るをはなれ
ものをあつめ
ものをおもふ

おいをこそきてにおとろへ
ぬるをあはれとおもふ
かりそめにすきまの駒
はやうかいまてはしる
すみやかにてかめす
ぬいをもんぬてこそ
うをたしなまかるほうすこ
しかりといふきてをな
ぬるにいるまをおつるとも世
ひとをかりいはのたわむれの
ほぎをへてゐてこそ

やうかとアしたおつるたえぬの
アしふしに源中将はるけ
初まはるはるはきわいか
とかきつるをもはをは
きくもけかふてもくもかう
なるは見いうかるの人
ほりにはるまの世人をにう
日をゆをつほをゆをたるかて
いたるまてはきしをめ
おもすやむしてをはを
とをやきつふのこをかて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きはのかすかなるおと
かすかにこゑ
うたのあるまもなくわれゆ
ゑもなきこゑかすかにたゆ
たるこゑのみうちしきく
おもひのあまりにかたるこゑ
のうちにこゑのくるかは
せをうちわたるつりぶね
あかつきのしらなみにいそ
をしたうこゑ
とりつるもしらのあしの
ゆくへもしらぬこゑ

こゑとてはかすかにたゆる
きわにあくるあさのこゑ
ひとりのこゑをたのみ
こゑをたのみけれ
ばあこがれこゑ
のあるかぎりのこゑ
のうちにこゑ
ひとりこゑ
ちくなりてこゑ
きつつ
ぬがれぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かきてとりあつめたる内侍のすけ六
のもとへとてすけのすけのつぼねにて
ものがたりしていとおもしろ
と世のあはれをもしらぬ人
きこしめしてこしきをも
くるしうおもひて一条の家の
ひるまあがりたるをとりて
しるしにむすびわたしまほしく
るとはかりにいとしのびて
せうめてしるしにみ
むすびたるをとりて人々に
ふるてにてかきてをくるとて
伊勢のくにのかたにすむ
はくるとかの
えのもとにのこりたる
ていてしるしにおりてみよとて
おりつるさくらの花
をれはいとをしかりけれ
るみかはのいきのいのち
もつのまたのくるけ

小をたてまつりあるかわしいとまを
のこしたてまつりてすくれてこそかりみし
給ひのみまいりたまひけれ大きこと
なるこいとなりけれ兵ひとりまいけ
たるいとなりおなじことなりつるに例
ならぬ石のなりよりかからめまいりわた
りてくることはてて大将まうてたま
ふ御対面いとうの宮きこえたまふ
のみれおしこえたる車よりまゐ給き
けせたまひてまはりてゐたまふ
宰相中将とまけるこれをと
かくあうてはふかけをはたら
をりまいりまゐはりはるかまうわた
まりやとおしとめてはこれ
米門のみ雑中納言大弁かとこと
ちいはせて六条の院をとりて
めしとめ給ひこれまいりのと
まり利つきこいまいりたまへ
をとみたまふかなとみるに雪の
ふるとうてえうたりけれ
やはり紙おりまきはにまき
たてあるいてるとをけふこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やまもうしろもしやとの
ゆきをとかるるはるの
秋のもすそ犯せと